



宇宙がおいなす 歴史ロマン



皆既月食と天王星食がWで起こるのは、実に442年ぶり。

(1580年といえば大坂本願寺の抵抗が終わった信長にとって画期となる年、好奇心旺盛の信長は皆既月食を恐れずに見ていたのではないのでしょうか・・・)



太陽系

【11月8日の夜の天体ショー】

次回は何と322年後、2344年の土星食まで起こらないわけですから。私は7時半過ぎから断続的に夜空を見上げていました。(ど素人丸出しで恥ずかしいのですが) 驚いたこと、初めて知ったこと、改めて勉強になったことがたくさんありました。

- ・月食は、太陽・地球・月が一直線に並んだ時に限り、満月のころだけに起きる。
- ・天王星は6等級(尺度は10までである?)、条件がよければ肉眼で見える限界の明るさ。
- ・天王星食は天王星が月の後ろを通過することでおこる(普通は月が明るすぎて見られない)。
- ・月食は3時間40分ほど続くが、皆既月食も1時間26分も続く。
- ・皆既月食中の月の色は赤黒くなる。

なんだ、そんなことかと呆れた方もいらっしゃるのではないですか・・・

さて

みなさんは家庭でお子さんやお孫さんを相手にこのことについて触れられたでしょうか

今回の天体ショーに触れない手はないし、触れ方次第では大いに興味をもつ子がきつといるに違いありません。

触れるというのは、話題として投げかけるだけでももちろんよいと思うのですが、できれば、事前に興味をもたせて一緒に観察をするというのがよいですね。観察しながら家庭で感想を交流し合うのは素敵なことですし、そこから子どもたちの可能性が広がることは十分あるわけです。

学校での天体ショーは

当日の朝・・・子どもたち一人ひとりがタブレットを使って夜に起こる天体ショーについて調べていました。

翌朝・・・担任が「昨晚の月食を見た人！」と子どもたちに問いかけていました。前日のどこかでその話題を投げかけ観察することを促したのでしょう。

・・・子ども自身がタブレットで撮影した赤黒い月をテレビ画面に映して、学級の仲間に対してプレゼンをしていました。

